

2004/8/22 受付

紺谷延子氏

下記の意見を淀川工事事務所に送りました。

桜の頃、宇治川を挟んだ平等院と宇治上神社周辺はたくさんの花見客で賑やかになる。宇治十帖ゆかりの史跡も点在するこの辺り一帯は歴史都市宇治が誇る観光の名所で、訪れる観光客にも一度に二つの世界遺産を見学出来る観光スポットとして人気がある。しかし、世界遺産周辺の環境は悪化し深刻な状況にある。

平等院の借景を汚してそびえる高層ビルが訪れた人々を落胆させていることは周知の事実であるが、直近を流れる宇治川でも憂える事態がおきている。価値ある文化遺産を景観破壊から守ろうと、市民は守る会を結成し行政に働きかけてきた。

昨年、宇治市の「都市計画マスタープラン」づくりの為のワークショップが開かれ、その時参加した人達が我が町のシンボルとしてあげたのが、世界遺産の「平等院・宇治上神社」「宇治川」「宇治茶」だった。まとめられた「都市計画マスタープラン」に、「世界遺産および宇治川とその周辺環境を町のシンボルとして保全」との文言が盛り込まれたことを嬉しく思う。計画の具体化が急がれる。

宇治川は世界遺産の「平等院・宇治上神社」の緩衝地帯（バッファゾーン）に含まれ、文化財の保護と合わせて手厚く保護されなければならない周辺環境として存在する。ところが、近年施行された河川改修工事で大きく姿を変えてしまった。

宇治川の河川改修工事は、天ヶ瀬ダム1500トン放流に対応する為だと知らされてきた。しかし、市民は具体的な全体像までは知らされないまま、いったい何のための工事かと思って見守ってきた。宇治橋の架け替え工事もあった。静かになった今、露わになった変化に戸惑う。

「新たに作られた急傾斜の護岸」「川幅を狭める埋め立て」「流れを断ち切る閉め切り堤」「閉め切られた川で発生する大量の藻と悪臭」そして、埋め立てで澱んだ流れの中で、干上がった甲羅を曝している奇岩『亀石』の有様に驚かされる。天ヶ瀬ダムからの放水量増加を見込んで先行的に実施された工事が、終わって見れば世界遺産周辺の景観を壊す無駄な公共工事だった、というのが市民の側から見た感想である。「危険・近寄るな」の看板ばかりがめだつ川に、悠久の歴史を刻んだかつての趣はみられない。

「天ヶ瀬吊り橋」から「塔の島」にかけて、宇治川の右岸を埋めて作られた土手の下には導管が埋設され、本流から流れを閉め切られた「塔の島」内側の川（宇治川派流）に水が入るように設計されているらしい。しかし、自然の水の流れを断ち切られた宇治川派流は悪臭漂うどぶ川に姿を変え、一面が藻に被われている。毎年、夏場の観光シーズンになると大がかりな工事で除去作業をしなければならない事態は何故生まれたのか、責任の所在が明らかにされるべきではないだろうか。

かつては子どもの水泳教室が開かれ、市民がボート乗りを楽しむ憩いの水辺だった。そして、夜になると篝火の下で鵜飼いが行われ、歴史都市に相応しい光景を身近で見ることが出来た。水面にわずかに姿を見せる天然石「亀石」を見つけ、どれだけ多くの人々が自然の不思議に心を躍らせたかしのれない。

現在の宇治川はすでに直線的な石垣で仕切られた巨大な排水路のようである。勾配のきつい護岸はちょっと水位が高いときに落ちたら最後で上がってはこられない。この上パワーシャベルで河床を掘り下げ、さらに流れが速く、流量が多くなると宇治川はどうなるだろう。世界遺産の周辺景観である宇治川を壊し、水辺に人を寄せ付けぬ放水路に変えてまで天ヶ瀬1500トン放流の工事は必要なんだろうか。

川幅を狭くした川を水が勢いよく流れていく様子を見ていると、私たちはとてつもなく危険で愚かな計画を見せつけられているように思えてならない。

説明会で川下の住民が護岸の補強を訴えたことがあった。この度その辺りと思われる箇所、国土交通省が「(堤防の上の)道路が沈下し既設石積みが一部崩れているのを確認」したため、この8月から3ヶ月近くかけて、「護岸緊急復旧工事」を行なうことになったことを知って、住民の不安がいよいよ現実になったことにショックをうけた。もろくなった「護岸」堤防をあらって放水量を増やした水が勢いよく流れていったとき、次に何が起きるのか容易に想像がつく。国民の生命と財産を守る治水事業がこんな素人にも分るずさんなものでよいだろうか。世界遺産の景観を壊し人々に不安を与える天ヶ瀬1500トン放流計画の見直しを求めたい。